

全国ボランティア  
コーディネーター研究集会

# JVCC 2020

東京 TOKYO

いま、あらためてボランティアの価値を問う  
～多様性をチカラに、TOKYOから未来へ～

**2/22 sat. 2/23 sun.**

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

参加費：一般 **13,000円**、JVCA正会員・準会員 **11,000円**

※「WEB早割」はそれぞれ1,000円割引

定員：250名 ※締切前に定員に達した場合は、その時点で締切とさせていただきます。

申込締切：2020/1/31 Fri. 《17:00必着》 WEB早割は1/24 Fri.締切

主催：全国ボランティアコーディネーター研究集会2020東京 実行委員会  
認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会 (JVCA)

共催：独立行政法人国立青少年教育振興機構

後援：社会福祉法人全国社会福祉協議会、社会福祉法人中央共同募金会、認定特定非営利活動法人日本NPOセンター、  
認定特定非営利活動法人国際協力NGOセンター、公益財団法人日本YMCA同盟、一般財団法人自治体国際化協会、  
一般財団法人児童健全育成推進財団、一般社団法人環境パートナーシップ会議、ESD活動支援センター、  
関東地方ESD活動支援センター、認定特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会、  
特定非営利活動法人日本病院ボランティア協会、日本生活協同組合連合会、東京ボランティア・市民活動センター

問い合わせ 全国ボランティアコーディネーター研究集会2020東京 実行委員会事務局  
〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2丁目13番地 末よしビル別館30D  
TEL：03-5225-1545 FAX：03-5225-1563 E-mail：jvcc2020@jvca2001.org  
WEB：https://jvcc2020tokyo.jimdofree.com

# 開催趣旨

JVCC2020東京の開催に向けて2019年6月から実行委員会が組織され、議論が重ねられてきました。その議論の過程において、集会のメインテーマが「いま、あらためてボランティアの価値を問う～多様性をチカラに、TOKYOから未来へ～」と決まりました。

ボランティアコーディネーターが向き合うのは、人々の人格の中にあるボランティアという一側面です。コーディネーターは「ボランティア」という人を探しがちですが、個人が心の中にもっているボランティア性を発見することが求められているのだと、私たちは考えました。それは、「人の中にある多様性をチカラにする」ということです。

また私たちは、コーディネーターが地域の中に「ボランティア」という姿をした人影を探すのではなく、多様な姿をした一人一人のボランティア性を見つけ出す視線をもつ重要性にも気づきました。それは、「地域の中にある多様性をチカラにする」ということです。

さらに私たちは、こどもから高齢者まで、あらゆる世代それぞれに課題を抱えるような、孤立しがちな社会においては、課題を抱えつつもみんながもつボランティア性をつなぐのがこれからのコーディネーターの大切な役割になるのではないかと思いました。それは、「社会の中にある世代の多様性をチカラにする」ということです。

そんな思いをもって私たちが準備してきたJVCC2020東京が、「全国から集まる参加者の多様性をチカラにする」研究集会になることを願っています。

全国ボランティアコーディネーター研究集会2020東京 実行委員長 村上 徹也  
(国立青少年教育振興機構 青少年教育研究センター長)

## 参加対象

以下のような分野で実践経験を積んでいる方、分科会のテーマで課題意識を持って参加できる方

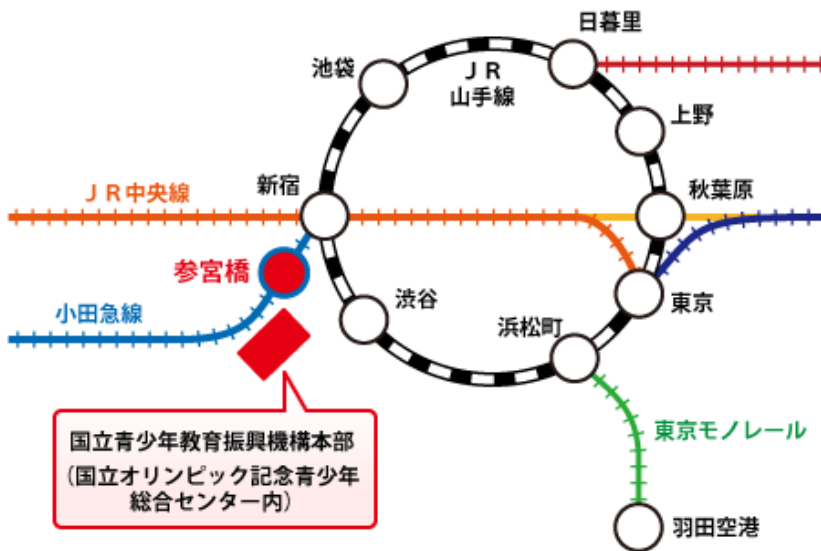
1. 社会福祉・介護、教育、環境、国際交流・協力、まちづくり、災害救援など**様々な分野で活動するNPO・NGO・協同組合**で、ボランティア受入れ・活動支援を担当するスタッフ
2. 高齢者福祉施設、障害者福祉施設、児童福祉施設、相談支援関連施設などの**社会福祉施設**で、ボランティアの受入れ・活動支援を担当するスタッフ
3. **病院、医療関連施設**で、ボランティアの受入れ・活動支援を担当するスタッフ
4. 公民館、図書館、博物館、動物園、水族館などの**社会教育施設**や文化ホールなどの**文化芸術施設**、公立公園などの**公共空間**で、ボランティアの受入れ・活動支援を担当するスタッフ
5. 小・中・高校、専門学校、大学・短大などの**教育機関**で、児童・生徒・学生のボランティア学習などを推進している担当スタッフ（教職員、学生など）
6. **企業や労働組合**などで、社員・組合員のボランティア活動参加を支援する担当スタッフ
7. **国・自治体**などで市民や市民活動団体との「協働」の推進または職員のボランティア活動推進を担当するスタッフ
8. **社会福祉協議会等のボランティアセンター、ボランティア協会、市民活動支援センター、国際交流協会**などのボランティア担当スタッフ、ボランティアコーディネーター
9. ボランティアコーディネーターまたはボランティアコーディネーションの**研究及び研修・養成**に関わっている方
10. **地域**のさまざまな課題を解決するために市民の参加や組織の連携・協働を促進する役割のスタッフやコーディネーター（コミュニティソーシャルワーカー、生活支援コーディネーターなども含む）

## 会場案内

# 国立オリンピック記念青少年総合センター

東京都渋谷区代々木神園町3-1

## ACCESS



### 電車

- 小田急線 参宮橋駅下車 徒歩約7分
- 地下鉄千代田線 代々木公園駅下車  
代々木公園方面4番出口 徒歩約10分

## 周辺地図

参宮橋からの[歩道橋]を使った経路



### バス

- 新宿駅西口 (16番) より 代々木5丁目下車
- 渋谷駅西口 (40番) より 代々木5丁目下車

## 国立オリンピック記念青少年総合センターについて



独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センターは、青少年教育指導者、その他の青少年教育関係者及び青少年に対する研修等を行うことにより、青少年教育の振興及び健全な青少年の育成を図ることを目的とする青少年教育施設です。

本センターは昭和40年4月、昭和39年に開催された東京オリンピックの選手村の跡地の一部を利用して、文部省所管の特殊法人オリンピック記念青少年総合センターとして発足しました。東京の緑豊かな代々木の森に位置しており、青少年及び青少年教育指導者等の各種研修や文化・芸術、スポーツ、国際交流等、幅広い体験の場と機会を提供しています。定員1,500名の宿泊施設、20人～最大300人収容可能な研修室、その他、各種スポーツを実施できる体育館、本格的なコンサートや演劇・講演会の実施できるホールなどを備えた、国内最大の都市型青少年教育施設です。

シンボルマークは、若人の情熱的で躍動するダイナミックな力と、Youth (若者) のYを重ね合わせたイメージによりデザインされています。



# プログラム一覧

2/22 Sat. (1日目)

受付：9:20～

時間	分科会No.	キーワード	テーマ	
10:00～12:00	オープニング		多様性を新たな共生社会のチカラに	
分科会A	A-1	若者	エンパワメントするコーディネーション 多様化する若者ボランティアへの関わり方	
	A-2	若者	若者ボランティアの「はじめの一步」を踏み出しやすくするには？ 環境保全団体が仕掛ける、体験・学びの仕組みから考える	
	A-3	地域	協働で叶える！住民の住民による住民のための地域づくり ご近所力を生かしたボランティアコーディネート実践から考える	
	A-4	災害	災害時、地域の力を引き出し、ボランティアの力を活かすには！ 日頃の取組から考えるコーディネーション	
	A-5	子ども	「子どもの声を聞く」から始まるボランティアコーディネーション 子どもと大人が共に楽しい活動をするために	
	13:30	A-6	ボランティア	職員間の温度差をなんとかしたい！！ 組織全体でボランティアの価値を認識するために
	～17:00	A-7	病院	小児医療施設のボランティア活動を生み出すボランティアコーディネーターの役割 困難な事例や成功事例から学んだこと
		A-8	やらされ	はじめは「やらされ」だとしても…。「やってみよう」と思える場に変えていくには 地縁組織の活動が楽しくなるボランティアコーディネーション
		A-9	防災デザイン	発達障害理解から地域防災づくりをデザインする インクルーシブ視点から始めるボランティアコーディネーション
		A-10	SDGs	ボランティアコーディネーターが推進する『SDGs』 SDGsを活用し、地域での連携をひろげる
		A-11	基礎研修	施設・団体のボランティアコーディネーション 組織にボランティアを受け入れる基本を身につける
		A-12	基礎研修	中間支援組織のボランティアコーディネーション 「つなぐ」だけで終わらないコーディネーションの基本を身につける
17:30～19:30	交流会		全国各地からボランティアコーディネーション関係者が集まります！	

2/23 Sun. (2日目)

受付：9:00～

時間	分科会No.	キーワード	テーマ	
分科会B	B-1	若者	“楽しい”の先にあるボランティア活動の価値とコーディネーションのツボ 若者ボランティアははじめの一步から次の一步へ	
	B-2	福祉教育	当事者と一緒につくる福祉教育！企画ワークショップ これからのパラスポーツ、立位テニスの挑戦	
	B-3	支援力	“主体性”を尊重したコーディネーションとは？ 「学び」と「活動」の循環を支えつなぐ社会教育の視点のアプローチ	
	B-4	災害	同時多発する災害と「ボランティア不足」にどのように立ち向かったのか 2019年台風19号の支援現場から	
	9:30	B-5	子ども	子どもを“感じ”、“理解し”、“共に学ぶ” 幼～小学校期の良質な「学びのコーディネーション」を目指して
	～13:00	B-6	ふりかえり	モヤモヤをスッキリ！グッドプラクティスから見えるコーディネーション成功のキモ ふりかえりを通して、将来へのアクションプランを考えよう
		B-7	レガシー	長野オリンピックの“レガシー”から学ぶ 東京の“その後”を考える
	B-8	多様な参加	ICTツールを活用して、多様な参加/コミュニケーションの機会とシナジー効果を 生み出そう	
	B-9	ソーシャル アクション	ソーシャルアクションをつくるボランティアコーディネーター	
	B-10	協働	Connection（繋がり）からCollaboration（協働）へ！ 課題を共有し、互いの強みを活かした新しい協働のカタチを学ぶ	
14:00～15:30	クロージング		新たな時代を拓くボランティアの価値	
15:45～17:45	JVCA2020年度通常総会		ボランティアとボランティアコーディネーションの魅力を伝える！可能性を広げる！	

2/21 Fri. (前日)

前日  
企画

## ボランティアコーディネーション力検定 1・2級合格者の集い

JVCC2020にあわせて、今年もボランティアコーディネーション力1・2級合格者の集いを開催。合格者同士の“顔の見える関係づくり”を進めましょう。

※時間、場所などはWEBサイト、Facebookで告知します。

[担当] 1・2級検定合格者有志

2/22 Sat. (1日目)

オープニング  
全体会

## 多様性を新たな共生社会のチカラに

国や人種、宗教などはもちろん、地域や組織、世代などの間にも違いやそれぞれの文化・風習があります。異なる文化との出会いや葛藤は身近な生活場面でも生じているにもかかわらず、関係のないこととして静観していたり、異質なものを排除したりするような風潮や出来事も起きています。日本社会における多文化化がますます進む今、これらの問題と向き合わずして、これからの地域共生は語れません。一方、これらの違いを前向きにとらえ、多様であることを新たな社会のチカラに変えていくという動きも見られます。

オープニング全体会では、さまざまな多様性と向き合い、新たな共生のカタチを模索する3人をパネリストとして招きます。実践報告とディスカッションを通して、これからの社会のあり方を展望するとともに、そのプロセスに市民がボランティアに参加していくことの意味と可能性を探ります。

### 【パネリスト】

モモヨ・ヤーゲンセンさん (ノーフェンスホイスコーレ短期研修部 代表/デンマーク在住)



1990年に渡航。デンマーク語語学学校に通いながら特別養護老人ホームで実習を受ける。その後、デンマーク国立介護士養成学校へ入学し「社会保健医療介護士(日本の社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士が合わさった資格)」を取得し、精神疾患・触法精神障害者の入所施設に勤務。2000年より教育大学で教育指導者・教育心理学・心理学・社会学などを専攻し教員免許取得。現在、デンマーク人を含む多様な国籍の外国人留学生を受け入れる国民学校「ノーフェンスホイスコーレ」に勤務し、対話を通して自己理解・他者理解の“人づくり”を促進している。

石井 ナナエさん (特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター 理事長)



国際交流に関心があり、地域に外国人と交流する居場所が必要と考え、法人設立に尽力した主婦。日本に住んでいる外国人の「自立支援と多文化共生」を目的とし、外国人の生活相談、数か国語で書かれた生活情報誌の発行配布、日本語教室、外国にルーツを持つ子どもの学習教室、DV被害者母子の自立支援、パソコン教室、通訳・翻訳事業、国際交流イベントの開催などを実施。かつて支援を受けていた外国人がボランティアに来るなど、多様性溢れる地域づくりの(コーディネーター)仕掛け人である。

松岡 健太さん (株式会社御用聞き 取締役)



2017年に日本社会事業大学卒業。在学中、様々なボランティア活動に関わる中で、御用聞き活動に出会い、魅了され就職。日常のちょっとした困り事(御用)を学生ボランティアと共に、会話を大切にしながら解決する「地域を盛り上げる、生活者に寄り添う活動」を展開。東京都内を中心に、幅広い地域、人々のニーズに応じている。世代間をつなぎ続ける、活動最前線の若者!

### 【コーディネーター】

村上 徹也さん (独立行政法人国立青少年教育振興機構 青少年教育研究センター長)



1989年から2002年、青少年のボランティア活動を推進する社団法人に勤務。2002年から2004年、米国のポイント・オブ・ライト財団の研究者としてサービスマーケティングを研究。帰国後、市民社会コンサルタントとして、サービスマーケティングを普及する教育施策づくり、教育現場と地域の協働プログラム開発、講演やワークショップのファシリテーターなど市民社会に関わる幅広い活動を展開。2009年から2018年、日本福祉大学で、サービスマーケティング、ボランティア論などの科目を担当。さらに、東日本大震災後の様々な災害時に、日本福祉大学災害ボランティアセンターの被災地支援活動にも参加。2018年4月から、現職。

## A-1 若者

### エンパワメントするコーディネーション

#### 多様化する若者ボランティアへの関わり方

対象：NPO・NGO・大学ボランティアセンター・中間支援組織などで学生・若者ボランティアと関わる方、このテーマに関心のある方

定員：30名

社会貢献、自己実現、自分探しなど、若者がボランティアに参加する理由やきっかけは多様化しています。一方で「参加する若者のモチベーションが低い」「体験が深まらない」「活動が継続しない」など、課題も山積しています。こうした課題に対して、ボランティアコーディネーターはどんなアプローチができるのでしょうか。

この分科会では、多くの若者を巻き込んで活動をしている団体の実践事例と、参加者同士の対話を手がかりに、多様な若者ボランティアのモチベーションを高め、活動を充実させていくためには何が必要かを考えます。

**【ファシリテーター】** 桜井 光さん（認定NPO法人藤沢市民活動推進機構 支援業務マネージャー）

**【事例発表者】** 長谷 拓海さん（学生団体TABLE FOR TWO University Association (TFT-UA)）

湯田 舞さん（特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会 (IVUSA)）

[担当] 畷尾 知佳（特定非営利活動法人アクション）／志賀 亮太（国立青少年教育振興機構）／太宰 茉里（特定非営利活動法人NICE）／東樹 康雅（藤沢市民活動推進センター）／永松 誠（千代田区社会福祉協議会）

## A-2 若者

### 若者ボランティアの「はじめの一步」を 踏み出しやすくするには？

#### 環境保全団体が仕掛ける、体験・学びの仕組みから考える

対象：高齢化・人材不足に課題を持つ団体・施設のコーディネーター

定員：30名

多くの環境保全団体では活動メンバーの高齢化や人員不足が課題となっており、活動の継続が困難な団体も見られます。活動してみたいと思っている若いボランティア希望者と、若い人に来てもらいたい団体をマッチングする仕組みをもち、3,300人が登録する団体の事例や、森林ボランティアの青年リーダー養成講座を開催し、学ぶきっかけから一歩を踏み出す仕掛けなどの事例をご紹介します。ヒントをもとに、若者が気軽に参加できる仕組みや興味を持ってもらえるような広報など、参加者の現場でも応用できる具体的な取り組みについて考えます。

**【事例発表者】** 河口 秀樹さん（認定NPO法人自然環境復元協会 理事・事務局長）

**【ファシリテーター・事例発表者】** 鹿住 貴之さん（認定NPO法人JUON（樹恩）NETWORK  
理事・事務局長）

[担当] 浦林 貴子（地球環境パートナーシッププラザ）／矢島 万理（公益社団法人国土緑化推進機構）

## A-3 地域

### 協働で叶える！住民の住民による住民のための地域づくり

#### ご近所力を生かしたコーディネート実践から考える

対象：ボランティアコーディネーター、CSWや生活支援コーディネーター等、地域づくりをすすめるコーディネーター、住民の立場でボランティア活動や地域活動をコーディネートしている方

定員：30名

昨今、地域づくりをすすめる様々なコーディネーターが配置されていますが、これからの地域づくりにはコーディネーション力を持つ住民との協働が欠かせません。

この分科会では、「住民ボランティアがコーディネーターとして配置されているボランティアセンター実践」と「住民の立場で地域をコーディネートしているキーパーソン」という2つの事例から、住民と専門職の違い、協働する意義や協働に必要なポイントを読み解き、住民活動が活性化するためのヒントや具体的なアクションについて考えます。

**【コメンテーター】** 小野 智明さん（横浜創英大学こども教育学部 教授）

**【ファシリテーター】** 仲丸 等さん（横浜市社会福祉協議会 社会福祉部長）

**【事例発表者】** 鈴木 恵子さん（NPO法人すずの会 理事長）

土屋 美津子さん（中野ボランティアセンター ボランティア相談員）

伊平 美穂さん（中野ボランティアセンター 主事）

[担当] 松岡 秀世（杉並区社会福祉協議会）／鈴木 佑輔（世田谷ボランティア協会）／草野 由佳（中野区社会福祉協議会）

## A-4 災害

### 災害時、地域の力を引き出し、ボランティアの力を活かすには！

日頃の取組から考えるコーディネーション

対象：ボランティアコーディネーター、社会福祉協議会職員、  
災害時支援活動を行う団体や個人

定員：30名

災害時、住民の困りごとや、地域課題を誰とどの様にキャッチし支援につなげていくかが、どのフェーズにおいても大きなテーマとしてあげられます。

これは災害時に特化したことではなく、社協活動、ボランティア・市民活動などの普段からの取組の延長線上にあるものです。

この分科会では被災地域のコーディネーターを迎え、各フェーズで発生した地域・住民課題の共有から、災害時と日頃の取組の関係性について確認し、災害時でも日常でも地域の力を引き出し、ボランティアの力を活かすコーディネーションについて一緒に考えます。

【ファシリテーター】長谷部 治さん（神戸市兵庫区社会福祉協議会 地域支援課長）

【事例発表者】菊池 亮さん（釜石市社会福祉協議会 地域福祉課長）

平井 良治さん（南房総市社会福祉協議会 主任自立相談支援員・CSW）

[担当] 赤間 篤（神奈川県社会福祉協議会）／三田 響子（相模原市社会福祉協議会）／平林 秀敏（川崎市社会福祉協議会）

## A-5 子ども

### 「子どもの声を聞く」から始まる ボランティアコーディネーション

子どもと大人が共に楽しい活動をするために

対象：子ども青少年に関わる児童館等の施設・団体職員や社会福祉協議会職員、  
子どもや中高生世代と現に活動していてその関わり方に悩んでいる方、  
市民活動に参加している方、これから参加をしたい方等、どなたでも

定員：30名

今、地域社会や施設では、子どもの主体的であり、継続的な参加による活動が求められています。この分科会では、子どもが地域活動へ参加するときの「コーディネーターの関わり方」に着目します。「子どもの声を聞くことの大切さ」「声を受けとめてもらえた子どもの変化（成長）」に関する話題提供から、大人の役割を共に考えていきませんか。また、ワークショップでは、自身の関わり方についても振り返ってみましょう。

※この分科会での「子ども」は、中学・高校生の年齢にある「中高生世代」とします。

【講師】原 京子さん（こどもフォーラム 代表）

【事例発表者】佐野 真一さん（港区立麻布子ども中高生プラザ 館長）

【ファシリテーター】阿南 健太郎さん（一般財団法人児童健全育成推進財団 総務部長）

[担当] 熊澤 桂子（東京教育専門学校）

## A-6

ボランティア

### 職員間の温度差をなんとかしたい！！

組織全体でボランティアの価値を認識するために

対象：福祉施設／ボランティア・市民活動団体で、数年ボランティア受け入れ担当を  
している方、社会福祉協議会やボランティア・市民活動センターのボランティ  
アコーディネーター

定員：20名

ボランティアの受け入れ体制は整っているはず…。ボランティアコーディネーションの勉強も、それなりにしたつもりだけれど「組織内でボランティア受け入れに温度差があるなあ。なんだかもう少しうまくいかないものかなあ」と感じていませんか？

ボランティアが職員間の温度差を敏感に感じ取ることにより、施設・団体への信頼や、活動へのモチベーションに影響することが懸念されます。そのような心配を解消し、組織全体でボランティアを受け入れるには、どのような工夫や取り組みが考えられるか、学び合いたいと思います。

【ファシリテーター】小原 宗一さん（北区社会福祉協議会／JVCA 副代表理事）

【事例発表者】馬場 雄輔さん（日の出太陽の家 統括主任）

[担当] 谷口 陽香（東京ボランティア・市民活動センター）

## A-7 病院

### 小児医療施設のボランティア活動を生み出す ボランティアコーディネーターの役割 困難な事例や成功事例から学んだこと

対象：医療施設で働くボランティアコーディネーター、  
このテーマに関心のあるボランティアコーディネーター、ボランティアリーダー

定員：20名

子どもの入院環境におけるボランティアの需要は多岐にわたります。中でも高度医療を頼って遠方から治療のために来院する難病児の場合、付き添う親やきょうだいに対する支援も必要です。とはいえ、感染のリスクやプライバシー等の問題もあり、ボランティアの受け入れはハードルも高い上、コーディネーターは数も少なく、一人職で、組織力も弱い状況です。

今回は困難事例や成功事例を報告し、情報を共有しながら、コーディネーターのスキルと社会的認知度を高めていきます。

【講師・ファシリテーター】野中 淳子さん（神奈川県立保健福祉大学 教授）

【講師】坂上 和子さん（認定NPO法人病気の子ども支援ネット遊びのボランティア 理事長）

【事例発表者】加藤 悦與さん（神奈川こども医療センター ボランティアコーディネーター）

佐藤 直子さん（宮城県立こども病院 専任ボランティアコーディネーター）

金岡 好さん（あいち小児保健医療総合センター 保育士）

## A-8 やらされ

### はじめは「やらされ」だとしても…。 「やってみよう」と思える場に変えていくには 地縁組織の活動が楽しくなるボランティアコーディネーション

対象：社会福祉協議会職員、生活支援コーディネーター、行政担当者、コミュニティ  
ワーカー、支援センター職員など、地域活動のコーディネートに関わる方、  
課題を感じている方

定員：20名

町内会・PTAなど「強制力・やらされ感」の強い地縁系組織は、人口減少・高齢化等、地域の多様な課題によって、組織の維持でさえ困難になっています。そのような組織を活性化させるには、ボランティアコーディネートにより「やらされ感」を「やってみよう」に変えることが求められています。

この分科会では、「『やらされ感』を『やってみよう!』に変える」視点やヒントを学び、現場での悩みを持ちより、具体的な場面での実践を一緒に考えます。活動者がワクワクして活動できるコーディネーションのあり方を見つけていきたいと思えます。

【講師】西川 正さん（NPO法人ハンズオン！埼玉 常務理事/JVCA 理事）

【コメンテーター】青山 織衣さん（コミュニティワーカー/JVCA 理事）

[担当] 川田 虎男（NPO法人ハンズオン！埼玉）/宮城 智広（鶴ヶ島市社会福祉協議会）/  
仙波 愛優佳（和光市社会福祉協議会）

## A-9 防災 デザイン

### 発達障害理解から地域防災づくりをデザインする インクルーシブ視点から始めるボランティアコーディネーション

対象：防災に関わるコーディネーター、行政・企業・福祉・教育・医療関係者、  
地域住民、障害当事者、その他興味のある方

定員：25名

近年、日本全土が地震や台風等、多大な自然災害により日常生活に影響を受けています。様々な避難所がありますが多様化する人たちを受け入れるには未開発な所があり、障害当事者からすると避難すること自体を躊躇する話が聞かれます。

この分科会ではデザインワークショップの手法を学び、障害当事者であるリードユーザーと共にフィールドワークや発達障害の疑似体験プログラムを通じて、多角的な視点から見えてくる地域の姿と防災づくりのデザインスキルを身につけながら、多様なコーディネーション力をブラッシュアップする機会とします。

【講師】井坂 智博さん（インクルーシブデザインソリューションズ 代表取締役社長）

【講師・ファシリテーター】相澤 満さん（社会福祉法人武蔵野会リンクス栞田 管理者）

[担当] 疋田 恵子（杉並区社会福祉協議会）



## A-10 SDGs

### ボランティアコーディネーターが推進する『SDGs』

SDGsを活用し、地域での連携をひろげる

対象：SDGsに関心があるボランティアコーディネーター

定員：40名

だれ一人取り残さないことを誓い、持続可能な社会に変革することをかけるSDGs。国内では、政府や自治体、企業による取り組みが進んできた一方で、課題もみえてきました。行政や企業の限定的な取り組みになっていないだろうか、市民や当事者の声が届いているのだろうか。

この分科会では、改めてSDGsができた背景や基本を理解します。加えて、今後ボランティアコーディネーターが、各地域で市民と一緒にSDGsを推進するための方法について考えます。将来ビジョンを共有し、団体や分野を超えた連携をうみだすきっかけにします。

【講師】稲場 雅紀さん（SDGs市民社会ネットワーク 政策担当顧問）

【事例発表者】石原 達也さん（特定非営利活動法人岡山NPOセンター 代表理事/JVCA 理事）

松下 桂子さん（パルシステム生活協同組合連合会 広報本部企画・広報部

広報・商品活動課 主任）

永井 美佳さん（社会福祉法人大阪ボランティア協会 常務理事・事務局長）

[担当] 上田 英司（日本NPOセンター）／松原 慶明（日本生活協同組合連合会）／文珠 正也（日本協同組合連携機構）

## A-11 基礎研修

### 施設・団体のボランティアコーディネーション

組織にボランティアを受け入れる基本を身につける

対象：ボランティアを受け入れている施設や団体の担当者（担当として実務経験1年未満程度の方を想定しています）、これからボランティア受け入れを検討している施設・団体の方

定員：20名

福祉施設・事業所、病院、美術館・博物館、文化施設、NPOなどの非営利組織におけるボランティア受け入れの基本的な考え方や手法と手順、ボランティアコーディネーターの役割などを学びます。

【講師】後藤 麻理子さん（認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会 理事・事務局長）

[担当] 日本ボランティアコーディネーター協会

## A-12 基礎研修

### 中間支援組織のボランティアコーディネーション

「つなぐ」だけで終わらないコーディネーションの基本を身につける

対象：中間支援機能をもった組織のボランティアコーディネーターおよび関連スタッフ（担当としての実務経験1年未満程度の方を想定しています）

定員：20名

社会福祉協議会、市民活動センター、NPO支援センター、大学ボランティアセンターなど、中間支援の役割をもった組織におけるボランティアコーディネーターの基本的な考え方やボランティアコーディネーターの役割と実務を学びます。

【講師】唐木 理恵子さん（認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会 代表理事）

[担当] 日本ボランティアコーディネーター協会

## 交流会

### ☆ 交流会 ☆

全国各地からボランティアコーディネーション関係者が集まります！

1日目のプログラムを終えて、夜は気楽に交流タイムを過ごしましょう。講師や事例発表者、実行委員なども参加を予定しています。みなさまの参加をお待ちしています。

（参加は任意です。別途参加費がかかります）

会場：国際交流棟 レセプションホール

## B-1 若者

### “楽しい”の先にあるボランティア活動の価値と コーディネーションのツボ

若者ボランティアははじめの一步から次の一步へ

対象：活動紹介だけでなく活動の事前・事後への関与も含めた ボランティアプログラムを運営している大学等のコーディネーター、  
上記のようなプログラムで学生・若者を受け入れている団体のコーディネーター

定員：20名

大学のボランティアセンターでは、学生がボランティア活動を通して社会に参加し、気づきや学びを得て、社会課題に挑むきっかけになってもらいたいとプログラムを企画しています。「やれてよかった（達成感）」や「楽しかった（充足感）」が得られることも活動の醍醐味ですが、背景にある社会の矛盾や問題、ボランティアを必要とする人の思いや本音に気づかぬまま、活動を終了してしまうことも少なくありません。“楽しい”の先にあるボランティアの価値を考え、そこにたどり着くためにはどのようなコーディネーションが求められるのかを互いに学び合いたいと思います。

【コメンテーター】小原 宗一さん（北区社会福祉協議会/JVCA 副代表理事）

[担当] 足立 陽子（首都大学東京ボランティアセンター）/川田 虎男（聖学院大学ボランティア活動支援センター）/  
宮本 晴美（成蹊大学ボランティア支援センター）/八木 晶子（さきちゃんち運営委員会）

## B-2 福祉教育

### 当事者と一緒につくる福祉教育！企画ワークショップ

これからのパラスポーツ、立位テニスの挑戦

対象：福祉教育や地域講座の企画担当コーディネーター

定員：30名

当事者と一緒に福祉教育の企画を立てるとき、どうしてますか？コーディネーターとして当事者が伝えたいことを把握し、どうすれば熱量をもって伝わるか？この分科会ではまず当事者の講義を体験し、その後、当事者へのヒアリングを元にオリジナルの企画を立てるワークショップを行います。障がいがあるなしに関係なく一緒に楽しむことのできるスポーツ「立位テニス」の話を通して、障がいの多様さや、適応するための工夫を伝える企画をつくりまします。

※義足体験があります。大腿部まで固定する義足を使用するため、スカートの場合はレギンスなどをお持ちください。

【事例発表者】柴谷 健さん（日本障がい者立位テニス協会 代表理事）

柴谷 玲子さん（日本障がい者立位テニス協会 理事）

高原 安浩さん（義肢装具サポートセンター 義肢装具士）

[担当] 薮田 真理子（荒川区社会福祉協議会）

## B-3 支援力

### “主体性”を尊重したコーディネーションとは？

「学び」と「活動」の循環を支えつなぐ  
社会教育の視点からのアプローチ

対象：活動の入口となる講座等のプログラムづくりや活動者への関わり方に悩んでいる方、主体性を尊重したコーディネートについて学びたい・考えたい方

定員：20名

市民が「自らの意志で自由に学びいきいきと活動する」ために必要な「適切な支援」とは！？

この分科会では、学習と活動の循環の中で参加者自らが対象者や課題を見つけ、力をつけていくことをめざす「すぎなみ大人塾」の過去の事例をもとに、地域で活動を始める契機をつくるより実践的な講座プログラムの企画・工夫と、活動者〈市民〉とその成長（学び・活動）をサポートするコーディネーター〈職員〉の実践プロセスを紐解きながら、「主体性を尊重したコーディネート」「真のボランティア活動とは何か」について考えます。

【講師】高井 正さん（立教大学 特任准教授）

【事例発表者】大森 景介さん（すぎなみ大人塾 修了生）

瀬山 岬さん（元杉並区社会教育指導員）

[担当] 高木 悠子（北区立文化センター指定管理者(株)旺栄）/松岡 秀世（杉並区社会福祉協議会）

## B-4 災害

### 同時多発する災害と「ボランティア不足」に どのように立ち向かったか

2019年台風19号の支援現場から

対象：災害時にボランティアコーディネーションに携わる方、  
「ボランティア不足」の報道にもやもやした方

定員：30名

台風15・19号を筆頭に、2019年は大規模災害が同時多発する1年でした。被害の大きさと同時に報道されたのは「ボランティア不足」の問題。災害ボランティアセンターでの活動者数に注目が集まる一方で、ボランティアプログラムの開発力は「不足」していなかったのか？何度も来なくなる工夫に「不足」はなかったのか？この分科会では、2019年の災害ボランティア支援の実践を手掛かりに、災害時における様々な「不足」を乗り越えるボランティアコーディネーションの方策を考えていきます。

【講師】柴田 貴史さん（鹿沼市社会福祉協議会 主査）

早瀬 昇さん（社会福祉法人大阪ボランティア協会 理事長／JVCA 副代表理事）

【ファシリテーター】土崎 雄祐さん（一般社団法人とちぎ市民協働研究会 専務理事・事務局長）

## B-5 子ども

### 子どもを“感じ”、“理解し”、“共に学ぶ”

幼～小学校期の良質な「学びのコーディネーション」を目指して

対象：放課後児童クラブ（学童保育）・児童館等に関わる方、ジュニアリーダーに関わる方、青少年教育施設の指導・運営に関わる方、その他、子どもや親子と関わる活動をしている方

定員：20名

ボランティア活動を行う上で、相手を理解し、相手に応じた関わりをすること、相手を尊重することが非常に重要なポイントです。自分の気持ちや現状をうまく表現する術を持たない、比較的低年齢（幼児～小学校低学年）の子どもたちであれば、大人がきちんと子どもの想いを理解し、子どもの発する“何か”をきちんと感じ取って適切に対応することが必要です。家庭・学校・地域での子どもたちの居場所が多様化する中で、私たちコーディネーターはどのように子どもたちと向き合っていけばいいのか、その在り方を考えます。

【講師】池田 幸也さん（茨城キリスト教大学 兼任講師）

[担当] 志賀 亮太（国立青少年教育振興機構）／熊澤 桂子（東京教育専門学校）

## B-6

ふりかえり

### モヤモヤをスッキリ！グッドプラクティスから見える コーディネーション成功のキモ

ふりかえりを通して、将来へのアクションプランを考えよう

対象：ボランティアコーディネーター、ボランティアコーディネーションに悩んでいる方、自らのボランティアコーディネーションを見つめたい方

定員：25名

自分がこれまでしてきたボランティアコーディネーションについて、「対応はこれでよかったのか」「地域資源を上手く巻き込めないのではないかとモヤモヤしていませんか？実は、うまくいかないコーディネーションには共通する落とし穴があるんです！

この分科会では、グッドプラクティスに選ばれたボランティアコーディネーターがプロセスを可視化し、偶然ではない成功のキモを伝えます。みなさんが抱える悩みやモヤモヤの共有となぜうまくいかなかったのかその原因を分析し、短期・中期・長期のアクションプランを持ち帰りましょう！

【講師】妻鹿 ふみ子さん（東海大学健康学部 教授）

【事例発表者】岩井 俊宗さん（NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク 代表理事）

[担当] 平林 秀敏（川崎市社会福祉協議会）／牧野 大樹（横浜市旭区社会福祉協議会）／加藤 祥太（学研ココファン）／田口 雄一（特定非営利活動法人ぱれっと）

## B-7

### レガシー

# 長野オリンピックの“レガシー”から学ぶ

## 東京の“その後”を考える

対象：東京のその後を考えたい方、スポーツボランティアが地域で新たな活動を生み出すためのボランティアコーディネーション力を考えたい方、現在スポーツボランティア関連で活動するボランティアグループ等を支援している方など

定員：20名

2020年は、東京でオリンピックが開催され、約11万人がボランティアとして活動します。これをきっかけに、日本のボランティアは「変わる」のでしょうか？

ボランティアコーディネーターはどう考え、どう関わるのか？

長野オリンピックでボランティア全般を担当し、スポーツマネジメントの研究と実践を重ねる元組織委員会職員、そして、JVCC2019の分科会担当者からの話題提供を受け、2020年に起こることのその後の予想をしながら、ボランティアコーディネーターとしての心の準備をします。

【ファシリテーター】加留部 貴行さん（九州大学大学院 客員准教授/JVCA 理事）

【話題提供者】笠原 亜希子さん（金沢星稜大学人間科学部 助教/元長野オリンピック組織委員会職員）

竹田 純子さん（龍谷大学ボランティア・NPO活動センター/

JVCC2019京都スポーツボランティア関連分科会担当）

[担当] 武藤 祐子（千代田区社会福祉協議会）

## B-8

### 多様な参加

# ICTツールを活用して、多様な参加/コミュニケーションの機会

## とシナジー効果を生み出そう

対象：ICTツールに興味がある方、苦手意識もあり手が出せなかった方、企業、教育、医療、福祉等イベント企画等に関わるコーディネーターなど

定員：25名

「身体的（心身の障害やジェンダーによる課題があるため）に難しい」「会場が遠い」等の理由で、行事や会議の参加をあきらめた経験は、ありませんか？皆さんが企画するイベントの対象者のなかにも同じ思いをしている人がいるのではないのでしょうか。

そこで、本分科会では、ICTに着目し、前半は、ICTツールのデモンストレーションや通信機器を使った体験、沖縄地域円卓会議におけるICTを活用した参加サポート事例を中心に伺います。後半は、参加者の現場でICTツールを活かした多様な社会参加の可能性について探っていきます。

（デモンストレーション協力：NPO法人情報ボランティアの会・八王子 中島重則氏、他1名）

※当日、参加者ご自身のネットワークにつながる通信機器（スマートフォンやタブレット）に無料のアプリケーションをインストールいただくことを予めご了承ください。

【ファシリテーター】宮道 喜一さん（NPO法人まちなか研究所わくわく 副代表理事・事務局長）

[担当] 相澤 満（社会福祉法人武蔵野会リンクス桐田）/熊澤 利和（高崎経済大学）/宮城 智広（鶴ヶ島市社会福祉協議会）/浦林 貴子（地球環境パートナーシッププラザ）/疋田 恵子（杉並区社会福祉協議会）

## B-9

### ソーシャルアクション

# ソーシャルアクションをつくる ボランティアコーディネーター

対象：現行の制度では対応ができない相談を受けているボランティアコーディネーター  
ソーシャルアクションに関心がある方、他団体と連携して提言をしていきたい方

定員：30名

ボランティアコーディネーターに寄せられる相談は、現行の制度や仕組みでは対応が難しいものが含まれます。想いあるボランティアによって支えられるだけではなく、ボランティアコーディネーターが提言をして、制度や仕組みをつくっていくことも大切です。しかし、ソーシャルアクションまで生み出される事例は、まだまだ限られています。

どのような障壁があるのか？どういった方法が有効なのか？ソーシャルアクションに必要なことは？講義と事例から、ソーシャルアクションについて考えます。

【講師】筒井 のり子さん（龍谷大学社会学部 教授）

【事例発表者】高橋 清樹さん（認定NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ 理事・事務局長）

長谷部 治さん（神戸市兵庫区社会福祉協議会 地域支援課長）

[担当] 上田 英司（日本NPOセンター）/馬場 雄輔（日の出太陽の家）/  
東樹 康雅（藤沢市市民活動推進センター）/谷口 陽香（東京ボランティア・市民活動センター）

## B-10 協働

### Connection（繋がり）からCollaboration（協働）へ！

課題を共有し、互いの強みを活かした新しい協働のカタチを学ぶ

対象：社会福祉協議会ボランティアセンターや市民活動センターなど中間支援組織に関わる方、社会貢献に積極的な企業の方、大学ボランティアセンターで地域や企業等の協働を考えている方など

定員：30名

地域には複雑化した様々な課題が存在し、個々の活動では解決を図ることが困難になっており、地域の多様な主体とのつながり（コネクション）を更に深め、具現化した、協働（コラボレーション）が求められています。

本分科会では、今回は近年、日本でも注目されている、共通の課題に対して互いに強みを活かして新しい協働の在り方、米国の「コレクティブ・インパクト」の基本的な考え方を学びます。さらに目に見えない「関係性」を見える化してチームや組織を成長させる「システム・コーチング」により、協働に必要な関係づくりを体感します。

協働に取り組む多様な主体が事業の精度を高めつつ、これまで以上に強固な関係性でつながるための視点や実践的な考え方を学びます。

【講師・コーディネーター】長浜 洋二さん（モジヨコンサルティング合同会社 代表）

[担当] 赤間 篤（神奈川県社会福祉協議会）／永松 誠（千代田区社会福祉協議会）

## クロージング 全体会

### 新たな時代を拓くボランティアの価値

明日からのコーディネーションのためのふりかえりとわかちあい

2日間で学び合ったこと、議論したことを総括します。オープニング全体会や各分科会で語られたこと、語り切れなかったことを整理し、明日からのコーディネーションの糧となる時間にしましょう。

## 総会

### JVCA 2020年度 通常総会

2月23日（日）15時45分～17時30分

ボランティアとボランティアコーディネーションの魅力を伝える！可能性を広げる！  
～JVCAの1年を振り返り、これからのビジョンを考える時間です～

会員のみなさん、久しぶりにお会いしましょう！しゃべりましょう！

JVCCクロージング全体会が終了後、同じ会場で開催します。会員以外のみなさんも参加（傍聴）できます！

## つな がり

### つながり広場のご案内

JVCC期間中に会場内に開設！出会いと発見がいっぱいです。

ボランティアコーディネーションに関する図書販売や参加者持ち寄りによるパンフレット等情報設置コーナー、JVCAコーナー・理事、運営委員によるプチ相談、JVCAの活動紹介、会員マップ等の展示・新規会員受付！！（集会中に入会されると、その場でJVCC参加費の会員割引2,000円分をキャッシュバックします！）



認定特定非営利活動法人

## 日本ボランティアコーディネーター協会

Japan Volunteer COORDINATORS Association

市民の社会参加を支えるプロをめざして

市民が主体的に問題解決に取り組む社会を実現するために、一人ひとりの社会参加意識を高め、積極的に行動することを応援する専門スタッフとして「ボランティアコーディネーター」の存在はきわめて重要です。しかし、十分に社会的認知を得ていないことから、多様な分野で活動するボランティアコーディネーターの専門性の向上と社会的認知を進め、専門職としての確立を図ることを目的に、2001年1月に設立（同年8月にNPO法人化）いたしました。

### <JVCAがめざすもの>

ボランティアコーディネーターの専門的な役割を確立することをめざしています

### <事業・活動の3つの柱>

- ボランティアコーディネーターのネットワークの確立
- ボランティアコーディネーターの専門性の向上
- ボランティアコーディネーターの社会的認知の促進

### <取り組んでいる事業>

#### 1 情報の収集と提供活動

- ① ニュースレターの発行
- ② メールマガジンの発信
- ③ ブックレット・書籍の発行
- ④ ホームページ・facebookの運営
- ⑤ 文献・データの情報収集



#### 2 全国研究集会の開催

- ① ボランティアコーディネーターたちが一堂に会する<全国ボランティアコーディネーター研究集会(JVCC)>の開催



#### 3 検定システムの実施

- ① ボランティアコーディネーションカ1級・2級・3級検定試験・直前研修の実施
- ② 合格者への情報提供
- ③ 1級・2級合格者のつどいへの協力

#### 4 研修・セミナーの開催

- ① ボランティアコーディネーター初任者向け研修の開催
- ② ボランティアコーディネーター実務者向け基礎・応用研修の開催
- ③ 研修講師の派遣
- ④ 研修企画へのアドバイス

#### 5 調査・研究活動

- ① グッドプラクティス事例の収集および認定
- ② ボランティアコーディネーションに関する実務研修体系についての研究
- ③ 会員や検定合格者の実情やニーズの把握

#### 6 ネットワークの推進

- ① 会員メーリングリストの運営
- ② CoCoサロンの開催支援
- ③ エリアアクションの開催
- ④ ボランティアコーディネーター基本指針の配布・普及
- ⑤ 国内外の関係団体との連携、協働

■事務局 特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2-13 末よしビル別館 30D

TEL 03-5225-1545 FAX 03-5225-1563

E-mail : [jvca@jvca2001.org](mailto:jvca@jvca2001.org)

<https://www.jvca2001.org/>

# 参加申込方法

## ①申込方法

下記ウェブサイトのフォームから申し込みいただくか、裏面の参加申込書をコピーまたはダウンロードし、必要事項をご記入の上、郵送またはFAXでお申し込み下さい。

JVCC2020[Webページ] <https://jvcc2020tokyo.jimdofree.com>

■「WEB早割」の申込みは、**2020年1月24日（金）**まで！

※WEB早割で申込みいただいた方は、参加費から1,000円を割引します。郵送またはFAXでの申込みの場合は、割引期間内でも上記割引は適用されませんのでご注意ください。

■申込締切は、**2020年1月31日（金）17:00**です。

※確認のため控え（コピー）を保管して下さい。

※締切前に定員に達した場合は、その時点で締切とさせていただきますので、お早めに申込み下さい。

## ②参加費のご送金

参加申込み受付け後、メールまたはFAXで入金手続きのご案内をお送りしますので、参加費等をお振込み下さい。

※参加費等の入金を持って、正式な申込みといたします。

※ご入金後は原則として返金できませんのでご了承下さい。

※本研究集会中にJVCAに入会されると、会員参加費との差額をキャッシュバックします！会場内の「つながり広場」で入会手続きをされると、その場で差額2,000円をご返金いたします。

## ※宿泊について

宿泊の手配は事務局では行いませんので、各自でお願いいたします。なお、会場となる国立オリンピック記念青少年総合センターにも宿泊棟があります。（残室はわずかです）

※団体ではなく、個人でご宿泊いただくこととなります。宿泊を希望される方は個別で申込み下さい。

※オリンピックセンター「個人での宿泊」に関する詳細は下記より確認できます。

<https://nyc.niye.go.jp/d1-2-3-html/>

※利用状況によっては宿泊ができないこともあります。空室状況は下記より確認できます。

<https://nyc.niye.go.jp/users/syukuhaku.html>

## ★参加申込書に関する個人情報の取り扱いについて

※裏面の参加申込書にご記入いただいた個人情報は、本研究集会の開催に必要な連絡調整、担当実行委員・講師への告知、今後の本研究集会と日本ボランティアコーディネーター協会の事業のご案内の目的で使用します。

●ただし、参加者同士の交流のために、氏名・都道府県・所属団体・参加分科会は「参加者名簿」に掲載し、全参加者・全スタッフに配布します。

●参加される分科会によっては、本要項に明記されていない場合でも、事前アンケートをお願いしたり、事前にメーリングリストが設定されることがあります。

## 問い合わせ先

全国ボランティアコーディネーター研究集会2020東京  
実行委員会事務局

特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2-13 末よしビル別館 30D

TEL：03-5225-1545 FAX：03-5225-1563

E-mail：jvcc2020@jvca2001.org

WEB：https://jvcc2020tokyo.jimdofree.com



全て必須項目です。太枠内を正確かつハッキリとご記入下さい。

ふりがな			<input type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> JVCA正会員 <input type="checkbox"/> JVCA準会員
名前		歳代	<input type="checkbox"/> ボランティアコーディネーションカ1級検定合格者 <input type="checkbox"/> ボランティアコーディネーションカ2級検定合格者 <input type="checkbox"/> ボランティアコーディネーションカ3級検定合格者
所属団体 (正式名称)			役職・担当
連絡先	(〒 - ) 都道府県		
<input type="checkbox"/> 職場			
<input type="checkbox"/> 自宅	TEL	携帯電話	
	FAX	E-mail	

あなたが、ボランティアコーディネーションに関わった年数	年 月
あなたの活動形態	<input type="checkbox"/> 専任でボランティアコーディネーション業務を担当 <input type="checkbox"/> 以前、担当していた <input type="checkbox"/> 兼任でボランティアコーディネーション業務を担当 <input type="checkbox"/> 担当したことはない
あなたの所属団体の活動分野として もっとも近いものを1つ選んで下さい。	<input type="checkbox"/> 社会福祉 <input type="checkbox"/> 保健・医療 <input type="checkbox"/> 社会教育 <input type="checkbox"/> 青少年育成 <input type="checkbox"/> 環境保全 <input type="checkbox"/> 学校関係 <input type="checkbox"/> 国際交流・協力 <input type="checkbox"/> 男女共同参画 <input type="checkbox"/> まちづくり <input type="checkbox"/> 災害救援 <input type="checkbox"/> 企業関係 <input type="checkbox"/> 協同組合 <input type="checkbox"/> 中間支援(ボランティアセンターなど) <input type="checkbox"/> 国・自治体 <input type="checkbox"/> その他( )
JVCCへの参加回数	<input type="checkbox"/> 初めて <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目 <input type="checkbox"/> 4回目以上

▼参加希望分科会 ※必ず第3希望までご記入下さい。

		分科会番号	参加の動機(分科会決定時の参考としますので、詳しくご記入下さい。)
2月22日(土)	分科会A	第1希望：A-	
		第2希望：A-	
		第3希望：A-	
2月23日(日)	分科会B	第1希望：B-	
		第2希望：B-	
		第3希望：B-	
交流会 2月22日(土) <input type="checkbox"/> 参加(参加費4,000円) <input type="checkbox"/> 不参加			

▼参加費 一般13,000円(WEB早割12,000円)、JVCA正会員・準会員11,000円(WEB早割10,000円)

あなたの参加費は…	研究集会参加費	交流会参加費	合計
(★ご自身でご記入下さい)	円 +	円 =	円

特に配慮が必要な点があればご記入下さい：車いす利用 その他( )

事務局	受付日	受付連絡日	入力日	通知発送日	2/22分科会	2/23分科会	交流会		
記入欄									

※郵送の場合は、コピーしたものをお送り下さい。本紙は保管してください。